

九月一日は防災の日 揺れたら逃げる、高台へ！

地震や津波、関係ないと思いませんか？

今年三月二十日の福岡県西方沖地震、昨年十月の新潟県中越地震、そして平成七年の阪神・淡路大震災は、それまで比較的地震が起これにくいと考えられていた地域で発生しました。

同じような大きな地震が沖繩で起こらないとは限りません。それどころか、ごく小さなものも含めると、南西諸島から台湾にかけて年間に約八千回の地震が観測されており、地震はもろろん、周囲を海に囲まれた本県にとつて、地震から発生する津波は最も心配すべき自然災害の一つなのです。明和の大津波（一七七一年）は、宮古・八重山地方を中心に死者約二万二千人以上を出し、津波の高さは三十メートルにもなったとも言われています。

昨年十二月には、スマトラ沖地震に伴う津波災害で二十万人余の犠牲者が出ました。リゾート地でも大きな被害が出たことなどから、観光立県を自負する本県においては、大いに学ばなければならぬことがあります。



津波に関する知識と心得

- 1 津波は必ずしも引き潮で始まるわけではありません。何の前触れもなく襲ってくることもあります。
- 2 海岸付近で津波が見えてからでは逃げ切れません（海岸付近での速度は秒速10メートル=時速36キロメートル程度）。
- 3 津波は高波と異なり、波長が数キロメートルから数十キロメートルもあるため、高波のように一瞬やり過ごせば済むものではなく、巨大な水の壁が数分から十数分も押し寄せ続けるようなものです。
- 4 津波の持つ力は凄まじく、たとえ数十センチメートルの津波でも足下をすくわれ、流される危険性が高いです。
- 5 津波は、2波、3波と何度も繰り返して来襲し、必ずしも第1波が最大であるとは限らないので、津波警報が解除されるまで決して海に近づいてはいけません。

津波警報や注意報が発表された場合、強い地震を感じた場合には、直ちに高台もしくは3階建て以上の鉄筋コンクリート造の建物へ避難し、ラジオなどで情報を入手しましょう。

■波浪と津波の違い

波の高さが同じ2メートルでも、波浪は海水の表面部分の動きですが、津波は海底から海面までの海水全体の動きです。「波」というよりも「海面の上昇」そのもので、凄まじいパワーを持っています。

●波浪の場合（波の高さ2mでは、海面と同じ高さの家は波をかぶるだけである。）



●津波の場合（津波の高さ2mの場合は、海面と同じ高さの家は2mの高さまで完全に水没する。）



昨年の防災訓練の様子

近年日本での地震による災害状況

- 福岡県西方沖地震（死者1人、住宅全半壊約90戸）
- 新潟県中越地震（死者46人、重軽傷者4,794人、住宅の全半壊16,000戸余り）
- 阪神・淡路大震災（死者6,432人、重軽傷者43,000人余り、住宅の全半壊約250,000戸）



新潟中越地震による道路の決壊

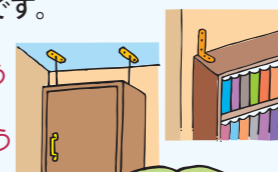
津波避難を中心に 防災訓練を実施します

毎年九月一日は「防災の日」、八月三十日から九月五日までが「防災週間」となっています。県では、毎年、防災週間に「総合防災訓練」を実施し、各防災関係機関や地元自治会などから多くの参加をいただいています。これは、一般の皆さんも自由に見学、体験いただけるものです。今年も、九月一日（金）に恩納村恩納漁港を中心に北部地区の十二市町村で、津波避難を重点的に防災訓練を行います。地元リゾートホテルや小中学校にも協力をいただき、スマトラ沖地震津波を教訓とした観光客・遊泳客の避難訓練や児童生徒の避難訓練なども実施します。津波の恐ろしさについてはニュース映像などで皆さんよくご存知かと思いますが、正しい知識を持つことが重要です。

日頃の備えは大丈夫？

阪神・淡路大震災では家具の転倒により多数の犠牲者が出ました。大地震を教訓に日頃からの準備が必要です。

教訓1 逃げ場となる空間を確保しよう



教訓2 家具を壁や柱などに固定しよう

耐震金具などを取り付けたり、重いものなどを下に収納して安定化を図りましょう。

教訓3 非常時の家族の避難場所や連絡先を決めておこう…

家族がはなればなれになったときの連絡方法や避難場所までの道順などを確認しておきましょう。



教訓4 消火器の常備と使用期限を確認しよう



教訓5 非常持ち出し袋を用意しよう 〔非常持ち出し袋に入れるものの例〕



- 1 非常食、水 各三分・市販の缶詰やミネラルウォーターで可
- 2 携帯ラジオ
- 3 懐中電灯
- 4 現金



- 5 救急用具
- 6 下着
- 7 軍手など

お問い合わせ 県防災危機管理課 TEL: 098-866-2143 FAX: 098-866-3204